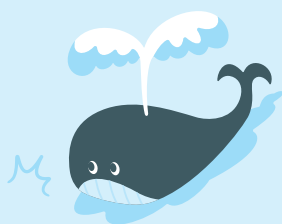
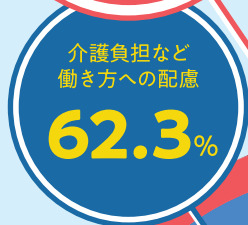


# 私を創っていく 機会と選択

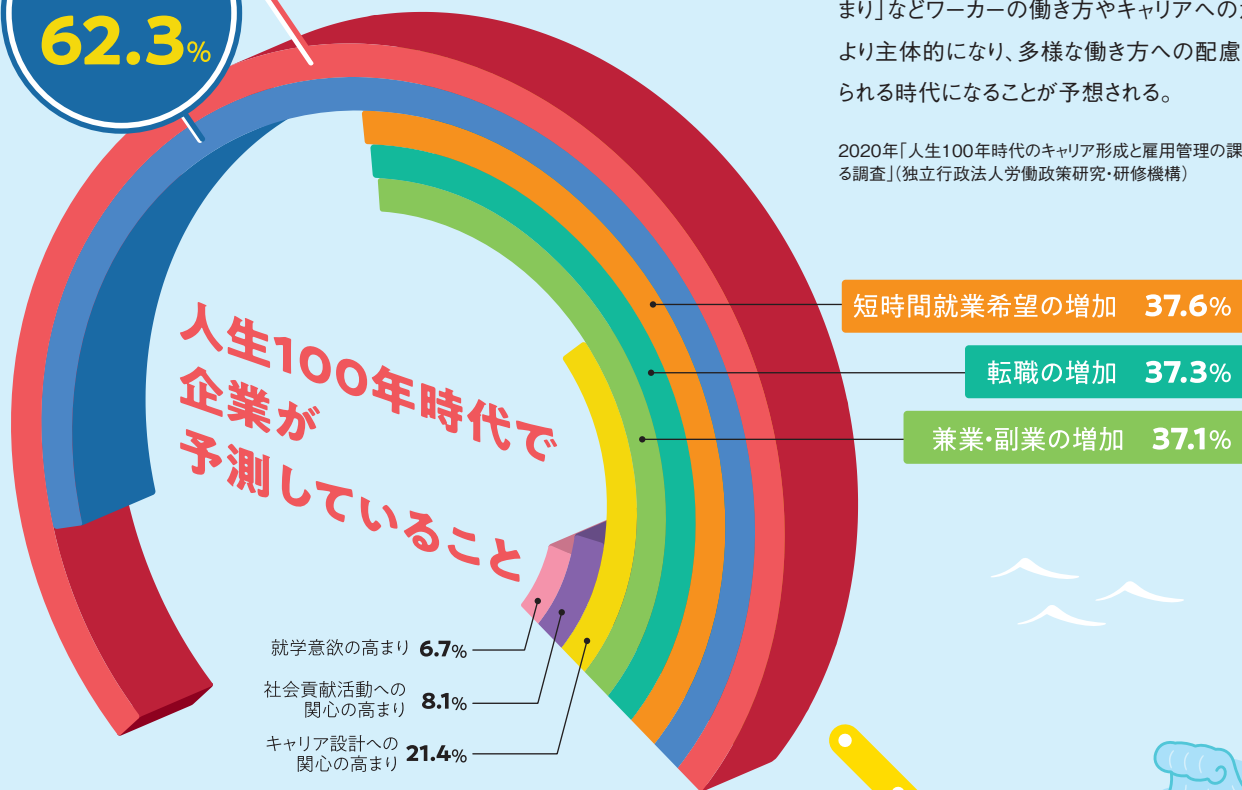
5年後、10年後の社会や求められる人材像が不明瞭ななか、  
どのような教育や進路指導を行えばよいか、悩まれている先生方も  
多いのではないのでしょうか。今回の特集では、「機会と選択」をキーワードに、  
これからのキャリア教育を考えていきます。

構成・文／笹原風花 イラスト／フクイヒロシ



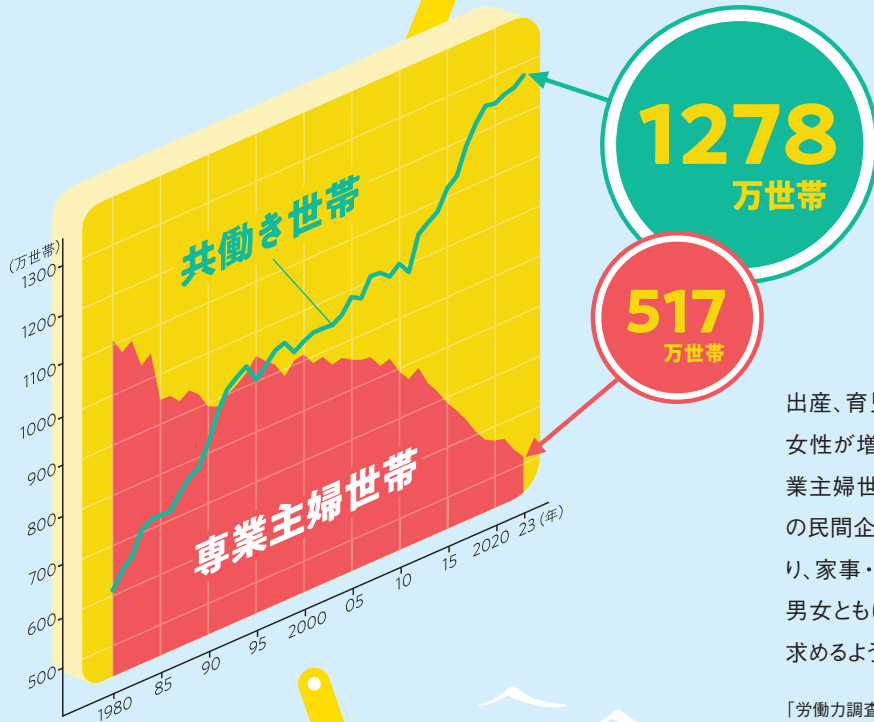
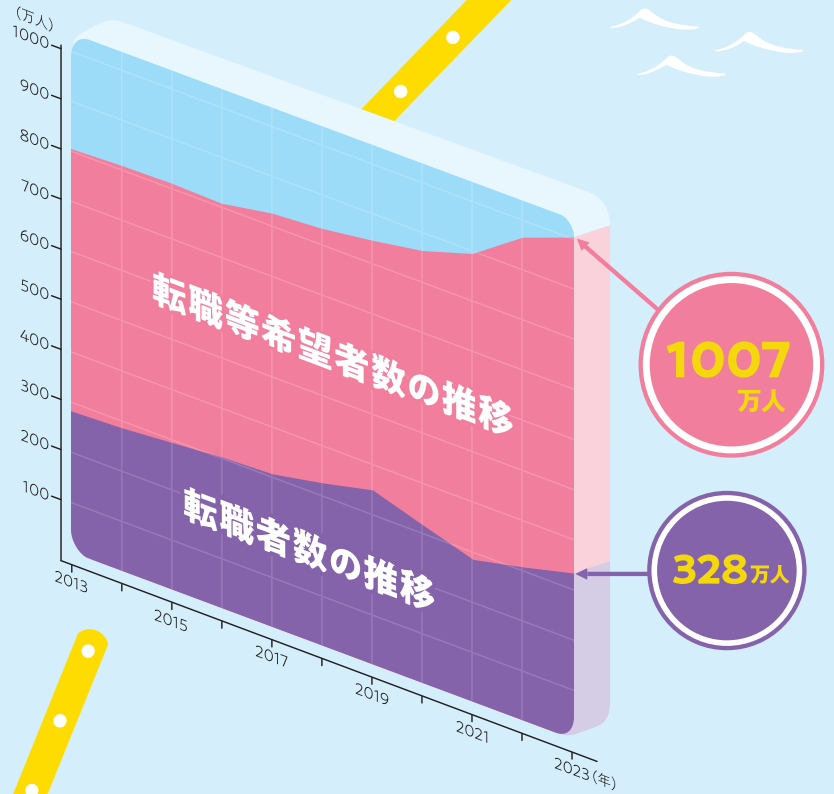
企業が「人生100年時代」で予測することのトップは、「勤続年数の長期化」。健康寿命の伸長などの理由から、今後は、歳を重ねても現役で働き続ける人が増えると考えられる。一方、「転職の増加」「兼業・副業の増加」「キャリア設計への関心の高まり」などワーカーの働き方やキャリアへの意識がより主体的になり、多様な働き方への配慮が求められる時代になることが予想される。

2020年「人生100年時代のキャリア形成と雇用管理の課題に関する調査」(独立行政法人労働政策研究・研修機構)



2023年の転職者は328万人(前年比25万人増)、転職等希望者数は1007万人(前年比39万人増)。いずれも増加傾向にあり、特に転職等希望者数の増加は近年著しい。若くして転職する人が増えるなか、終身雇用を前提としていた社内での人材育成のあり方などにも変化が見られる。また、「転職」へのイメージも、「キャリアアップ」というポジティブなものに変わってきている。

2023年「労働力調査(詳細集計)」(総務省統計局)



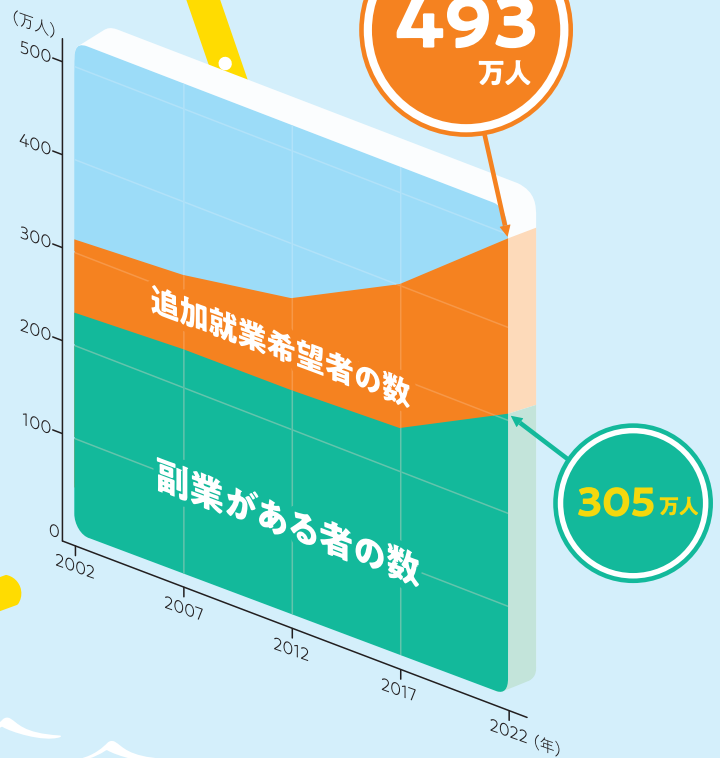
出産、育児などのライフイベントがあっても働き続ける女性が増え、共働き世帯数は増加。2023年には専業主婦世帯の2倍超になっている。また、2023年度の民間企業の男性の育休取得率は30.1%※にのぼり、家事・育児のジェンダー不平等は縮小しつつあり、男女ともにライフイベントに合わせた柔軟な働き方を求めるようになってきている。

「労働力調査特別調査」、「労働力調査(詳細集計)」(共に総務省統計局)より。※のデータは、2023年度雇用均等基本調査(厚生労働省)より



2022年の時点で、(非農林業従事者のうち)副業をしている人は305万人と、5年前に比べて60万人増加。また、追加就業希望者(現在就いている仕事を続けながら、他の仕事もしたいと思っている者)は493万人と、5年前に比べて93万人増加している。また、同調査によると、フリーランスが本業の人は209万人。複数の仕事をする、特定の組織に属さないなど、働き方の多様化が見て取れる。

2022年「就業構造基本調査」(総務省統計局)より



テクノロジーが進化し、変化が激しく先行きが不確実な現代において、「未来」を予測することはこれまで以上に難しくなっています。また、「人生100年時代」と呼ばれる時代を迎え、働き方や生き方、そして学びへの価値観も多様化しています。将来の目標を設定し、そこに向かって進学先や就職先を選び、スキルを身につけ、キャリアを重ねていく…。今の時代においては、そんな直線型のキャリアを描き、目標から逆算して最適解を選択するだけでは、変化に対応することが難しくなりつつあります。

キャリアのあり方が非直線的・複線的になるなか、人生を時代の流れや社会の波に翻弄された不本意なものにしないためには、何が大切なのか。人生の節目節目で主体的に道を選び、行動するためのカギの一つが、「機会をとらえる」ことだと私たちは考えました。自ら意図して起こせるチャンスもあれば、予想できない偶発的な出来事や出会いもあるでしょう。本特集を通して「人を創る機会と選択」について深め、未来を生きる高校生のために何ができるのか、先生方と一緒に考えていきたいと思えます。